

アメリカ・ドイツ短期滞在を終えて

2017年9月20日

工学系研究科物理工学専攻 博士課程2年 安田憲司

2017年9月4日より9月20日までアメリカ・ドイツに短期滞在し、研究室訪問を行った。

アメリカでは Boston の Harvard・MIT の研究室を訪問した。Harvard では、Amir Yacoby 教授、Philip Kim 教授の研究室を、MIT では、Pablo Jarillo-Herrero 教授、Joseph Checkelsky 教授の研究室を訪問した。ドイツの Halle, Dresden では Max Planck Institute の Stuart Parkin 教授、Claudia Felser 教授の研究室を訪問した。各大学、研究所では研究施設の見学をし、学生やポスドクの方々、教授から最近の研究に関するお話を伺った。また、自身の研究に関するセミナーを行う機会をいただき、研究室の方々と議論をさせていただいた。

いずれの研究室も現在の研究テーマである磁性トポロジカル絶縁体のスピントロニクスと関係する点があるものの、全く異なる物質、手法を扱っており、研究室訪問・議論を行ったことは研究の視野を広げる上で、非常に有意義なものとなった。

今回の海外派遣をサポートしてくださった ALPS 関係者の皆様、快く送り出して下さった十倉先生、十倉研究室の方々、現地での滞在でお世話になった研究室の皆様に深く感謝申し上げます。



Max Planck Institute for Chemical Physics of Solids の研究棟